

「自己の個性を探る」ことの意味

人はそれぞれ「個性」と呼べるものをもっています。また、自分の個性をよく理解し、人生の中でうまく生ずることが出来れば、多くの人にはそれを幸せに感じることでしょう。今日は、J・ホランドが提唱した「6つのパーソナリティ」理論を紹介し、皆さんそれぞれが自分の個性を言葉で探り当てるきっかけ作りをしたいと思います。

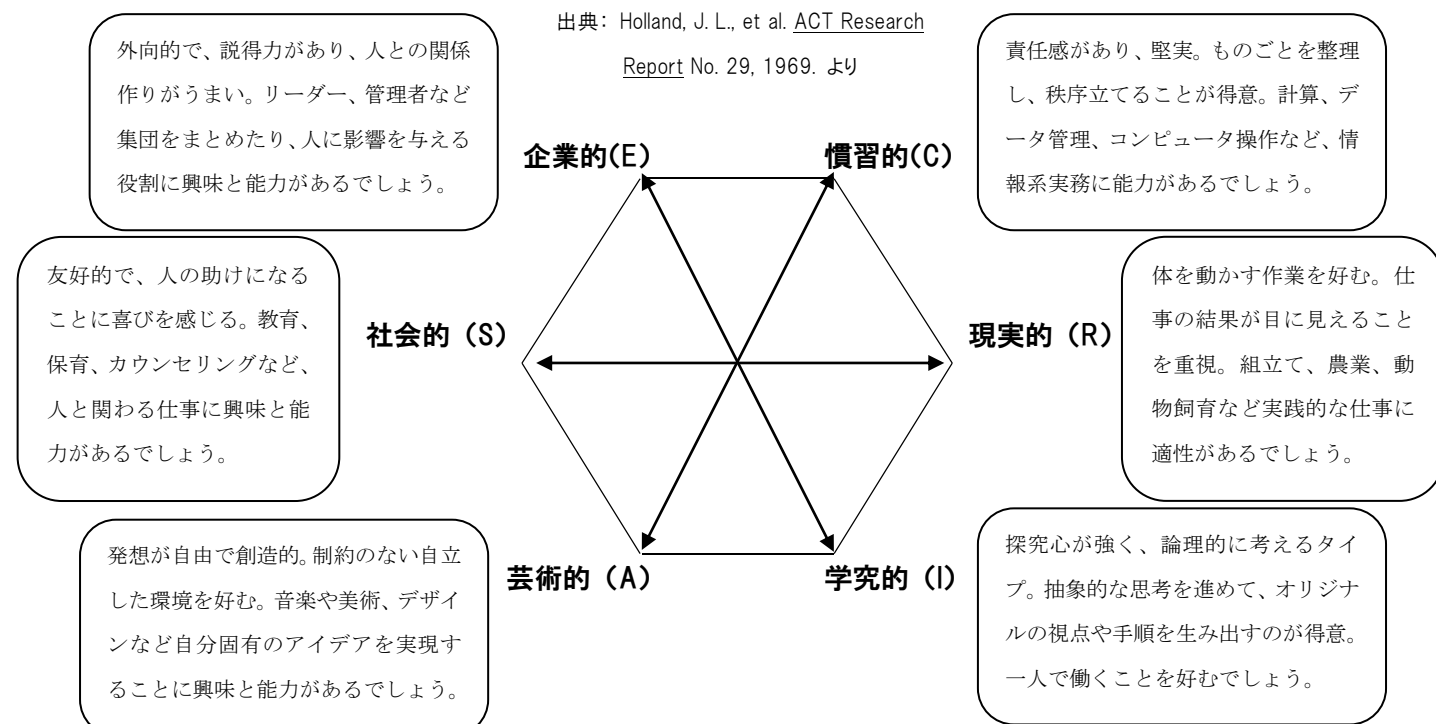
1. 人の個性はどのように形づくられるか（ホランドの発達理論）

<p>【幼年期】 身近な大人の観察から 自我のベース形成へ</p>	<p>この時期の子どもは、親や教師など、身近な大人の生活様式や日々の活動を手本として見ながら育つ。その中で、日々の行動の仕方や物事に対する好みなど、自我のベースが形成されていく。</p>
<p>【少年前期】 「プラスの強化」から 興味の芽生えへ</p>	<p>子どもはこの時期に、それを行うと親から愛される、教師にほめてもらえるなどの「プラスの強化」が得られる活動を発見する。プラスの強化がモチベーションとなり、特定の活動に対する「興味」が芽生えていく。（「興味」とは、ほかのことよりそれをしたい、という行動選択の好みのこと。）</p>
<p>【少年後期】 能力・スキルの発達から 価値観の形成へ</p>	<p>子どもは、興味をもった活動を上達させようとする。そのことで、固有の能力やスキル（能力をうまく活用するため知識や技術）が発達していく。さらに、自分の興味に関わるものを大事にしたいという欲求が強まることで「価値観」が形成される。（「価値観」とは、その人の活動をリードする信念のこと。）</p>
<p>【青年前期】 個性（自己像）の自覚から それを活かす方法の模索へ</p>	<p>自己の価値観に導かれた活動を行ううち、青年期には自分の個性を自覚するようになる（個性とは、「自分とはこういう人間だ」「自分にとってこういう状況が一番好ましい」といった自己イメージのこと）。また、大人として自立することを視野に入れ、社会の中で自分の個性を活かす方法を模索しはじめる。</p>

2. 「6つのパーソナリティ」理論を手がかりに「個性」を考える

J・ホランドの6タイプ理論

出典：Holland, J. L., et al. ACT Research Report No. 29, 1969. より



3. 自分の「スリーレターコード」を探ろう

ここで、ホランド理論を応用した Web 上の興味診断テストを紹介します。ただし、決して絶対的なものでなく、あくまで自分の個性を考える「きっかけ」だと思ってください。

<p>1st Step (授業内)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ホランドの六角形」の中で、自分が当てはまると思うタイプを選び、順位づけをして下記のワークシート項目「1」に記入する。 ・ もし希望する将来の仕事があれば、それをワークシート項目「2」に記入する。
<p>2nd Step (自習時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Yahoo/google で「キャリア・マトリックス」を検索。 このページへ→ http://cmx.vrsys.net/TOP/ ・ 「生徒・学生・若者」メニューをクリック。 このページへ→ http://cmx.vrsys.net/TOP/GCG_02.php? ・ 「3. 自分を理解する」の「適職検索ナビ」をクリック。 このページへ→ http://cmx.vrsys.net/A/CCS_a_01.php?sld=g& ・ 「スタートする」をクリックし、次の画面左側の「興味から職業を探す」をクリック。 このページへ→ http://cmx.vrsys.net/A/CCS_ak_01.php ・ 「興味診断テスト」を済ませ、その結果(6タイプの棒グラフ指標)をプリントアウトして、次回授業時にもってくる。

ワークシート

1. ホランド六角形のうち、あてはまりそうなタイプを3つ、より強くそう感じるものから順に記入してください。

1位	
2位	
3位	

2. 将来したいと思っている仕事があれば、それを記入してください(いくつでも可)